

三重県私費海外留学生体験記
小野田 有紗さん（イギリス・ロンドン）
英国王立音楽院 ピアノ専攻

2019年1月更新

・留学大学の全在籍学生数(規模)、1クラスの学生数はどのくらいですか。また、その1クラスの規模(少人数、大人数等)によるメリット、デメリットは何ですか。

学士、修士、博士課程などすべてのコースの在籍学生数は 500 人程度です。私の在籍する学士課程は一学年8、90人程度で、そのうちピアノ科は十数人です。授業によって人数は違い、学年全員で受ける講義形式の音楽史や、セミナー形式の数人で一クラスの授業もありました。ピアノのレッスンはもちろんマンツーマンで、公開レッスンは観客がいる中でレッスンとなります。大人数の授業では、たくさんの人の意見を聞けたり、教授のわかりやすい解説を聞けたりする一方で、少人数のクラスではより細かい議論や質問ができて、さらに理解が深まると感じました。

・学内における留学生数、及び日本人留学生数はどのくらいですか。

世界中から音楽家を目指す学生たちが集まっているため留学生が多く、8割程いると思います。日本人留学生は 10 名ほど在籍していて様々な楽器を専攻しています。現在はピアノ科には日本人は 1.2 名しかいません。

・日本人留学生同士で交流はありますか。

国籍問わず交流がありますが、日本人同士学校内で出会うとやはり安心感があります。学期中は皆それぞれ忙しいためなかなか会う機会はありませんが、校内のカフェテリアや練習室で出会うと近況を報告し合ったり、もちろん一緒に演奏する機会もあります。

・学内に、留学生をサポートする機関はありますか。その機関から、どのようなサポートを受けることができますか。

留学生が多い学校のため、英語のサポートをしてくれる先生や、留学生向けにレポートなどをチェックしてくれる先生もいます。そのほかにもチューターが個別で相談に乗ってくれたりサポート体制はしっかりしています。

2017年11月更新

・留学している学校や専攻しているプログラムの特徴は何ですか。

私が学んでいる英国王立音楽院は国際色豊かなとてもアットホームな学校です。4年間の学士課程では、ソロや室内楽のレッスンに加え、1、2年生では基本的な音楽理論、音楽史、Performance in Context(音楽と社会や政治の関係、オーケストラの発展、録音技術と音楽の発展など音楽の様々な背景を学ぶ授業)、オーラル(音楽を「聴いて」分析をしたり、聴音やソルフェージュのような授業)や指揮などの必修授業があり、3、4年生になると選択授業としてより専門的な授業を受けられます。それぞれの教科はそれぞれの専門

の教授が授業をしてくださるのですが、例えば音楽理論の授業で倍音の議題になった週に、オーラルでは倍音を生かした作品を聴いて議論しあったり、一つ一つの教科が独立するのではなく、繋がりを感じつつ様々な観点から音楽を追求できるのはこの学校の良いところだと感じています。専攻のピアノ科では、担当の教授のレッスン以外にも、毎週マスタークラスや特別レクチャーが行われていて、サインアップして、レッスンや授業を受けたりできます。世界中のトップクラスの教授陣、音楽家が客員教授として、年数回レッスンをしに来てくださる機会があるというのもこの学校ならではの特徴だと思います。

・留学の準備は、留学開始のどのくらい前から始めましたか。準備開始から入学までのスケジュールを教えてください。今後留学を考えている人が注意しないといけないことは何ですか。

ロンドンに留学する前、私はニューヨークに留学していたので、日本から直接留学する方とは少し違うかもしれませんが、英国王立音楽院の願書提出が10月くらい、受験が現地で12月にあり、入学が翌年の9月でした。志望校の入学の1年くらい前には準備をし始めているのがいいのではないかと思います。合格が決まってからも、様々な書類の提出やビザの申請や面接などにも時間がかかりますし、学校によって必要な語学のテスト(TOEFLやIELTS)が違うので、時間に余裕を持って、たくさん情報収集することが必要だと思います。やはり留学するには、語学は一つの重要なポイントになってくると思うので、入学やビザ取得に必要なテストをクリアするためだけでなく、入学後、より充実して学ぶためにも、早めに勉強をし始めるといいと思います。

・どのような宿舎に滞在していますか。その宿舎をどのようにみつけましたか。

私は家にピアノを置くために、学生寮などではなく、フラットを借りて住んでいます。Rightmove というサイトで様々な不動産会社の現在空いている物件を探せるので、そこで良さそうなところをピックアップして、コンタクトを取り、見に行き決めました。私にとっては、まずピアノが弾ける環境が一番大事だったので、音に問題のなさそうな部屋の間取りや近所の環境などを考慮して、現在住んでいるところに決めました。

2016年11月更新

・専攻している科目の学習内容、成績について(難しいこと、熱中していること等)

4年間のうちの最初の2年間は専攻のピアノのレッスンや室内楽のレッスンに加え、必修科目として音楽史や音楽理論などの授業がありました。音楽理論では、学期末に提出となる自分が選んだ作品に対するエッセイや分析、そして選んだ作品に対応する曲を作曲するという課題があります。エッセイを書くために参考となる本を何冊も読みながら分析するのはなかなか大変ではありますがとても勉強になりました。成績は試験と課題の評価の合計で出されます。無事、一番良い評価の Class I でまずは2年間を終えることができてよかったです。

2年生から始まった指揮の授業に熱中していて、3年生の選択科目でも選択する予定です。

専攻のピアノのレッスンでは、自分のレパートリーを広げるために様々な作品に取り組んでいます。2年生最後のリサイタル試験では45分ほどのプログラムを演奏しました。

・生活状況について(困ったこと、日本の生活と特に異なる点等)

海外での生活が長くなってくると、多少のことでは動じなくなりますが、やはり日本のような細やかなサービスや、特にイギリスでは美味しい食事はあまり期待できません。でも、これといって本当に困ったことはないかもしれません(慣れてしまったからかもしれません)。

・留学を経験して感じたこと、気付いたこと

やはり自分の意見を積極的に言うことが海外では重要になってきます。私の行っている大学には様々な国から学びに来ているため、国や文化によって見方が違ったり、表現の仕方が違ったり、自分が当たり前だと思っていたことは当たり前ではないことに気づきました。海外の良いところを知るとともに、日本の良いところも知ることができると思います。

・卒業後の進路について

卒業後の進路は、残りの2年間の大学生活の中でじっくり考えていこうと思いますが、この2年の中でコンクールなども挑戦しながら、世界で活躍できるピアニストになりたいと思います。

・三重県私費海外留学生奨学金制度について

海外で勉強するにはやはりお金がかかるので、この奨学金にはとても助かっています。この素晴らしい機会を活かして、もっともっと成長できるようにさらに勉強していこうと思います。

2016年5月更新

・専攻している科目の学習状況について

専攻のピアノの勉強は、まずソロのレパートリーを増やしてたくさんの新しい曲に取り組んでいます。昨年度はショパンの作品を集中的に勉強していましたが、最近は今まであまり取り組んでこなかったロシアの作曲家やシューマンの大曲を学んでいて、レッスンでも新たな発見の連続です。

ソロ以外では、室内楽でヴァイオリンとのデュオや、ヴァイオリンとクラリネットとのトリオなどを勉強中です。また、歌曲の伴奏の試験がもうすぐあり、練習とリハーサルの日々です。

ピアノ以外の授業では、音楽理論の学年末の論文や作曲の準備や、音楽史のエッセイにも取り組んでいます。また、昨年度はなかった指揮の授業もあり、20人程度で各自楽器を持ってきてオーケストラとして交響曲などを演奏し、交代で一人ずつそのオーケストラを指揮しながら教授にアドバイスを受けるというような内容で、オーケストラを指揮する難しさと楽しさを同時に味わっています。

音楽史では、歴史を知識として得るだけでなく、「なぜモーツァルトは素晴らしいと言われるのか。」などといった正解不正解のない内容を議論したりエッセイに書いたりします。また、学校では毎週公開レッスンや毎日のようにコンサートが開かれているのでとても勉

強になります。私は11月には学校のホールでリサイタルの機会もいただきました。刺激に溢れた毎日を過ごせています。

・ボランティアやアルバイトなど、どのような学業以外の活動をしていますか。

普段は学業とピアノの練習で忙しいため、アルバイトをする時間はありませんが、12月の大学の入試の手伝いとしてアルバイトをしました。

また、先日は日本のNHKの白熱教室の講義の撮影が大学であり、参加しました。

あとはコンサート活動をロンドンを始めヨーロッパでもしたり、コンクールにも挑戦しています。

・あなたの留学の目的は何ですか。

私は、クラシック音楽を学んでいます。音楽を学ぶために最も優れた環境はやはり西洋音楽の生まれた地ヨーロッパです。生活をして初めて理解できる空気や雰囲気そして刻み込まれた歴史を直に感じることは、自分自身の中に演奏をする上での精神的基盤をつくることです。また、様々な国籍の人々と交流し自分の活躍できる世界を広げることです。

・専攻している科目の学習内容について書いてください。

主に専攻しているピアノの個人レッスン、アンサンブル(室内楽)、アカデミック授業になります。音楽理論、和声、時代別作曲家の奏法の違い、最新コンピュータによる音楽テクノロジー、音楽史などを学びます。

3年次以降は、自由な選択により得意分野を深く学ぶことができます。師事者のレッスンだけでなく世界の著名な指導者によるレッスンも受けることができ、演奏機会も豊富にあります。

・留学大学に入学するにあたり、どのような手続きやテストが必要でしたか。

入学願書の提出

実技試験

IELTS(英語能力テスト)の入学基準を満たす証明提出

推薦状の提出

・留学校を決めるにあたって利用した資料や機関はありますか。

特に資料、機関などはありません。

・現在の留学校に決めた一番の理由は何ですか。

一番の理由は、現在師事しているエルトン先生について学びたいと思ったことです。学校を決めることも大事なのですが、どの師事者につくかが大きなポイントでした。

・昨年度、あなたが関わった国際交流・貢献活動について教えてください(ボランティア活動など)。

ドイツ、ポーランドのマスタークラスに参加し、世界各国からの参加者とともに演奏を学

び交流を深めました。また、ロンドンでは、演奏会に出席させて頂き地元の皆さんとも交流を持つことができました。